

300周年 記念情報

詳しくは
こちらを
チェック



買いたい



300周年記念 グッズ&グルメ

新発田台輪300周年を記念し、老舗や
人気店が記念グッズ等を限定販売します。
※順次販売開始予定となります。詳細は販売事業者の
ホームページ・SNS等をご確認ください。

知りたい

特別展示&イベント

300年の歴史を五感で体感する
企画展、イベントが盛りだくさん！
ここでしか出会えない限定コレクションを
お楽しみください。

体験したい

新発田台輪300周年特別運行

奉納台輪：
8月27日(木) 午前5時～8時頃
諏訪神社神門前で台輪6台が並び、
一斉あおりやお祓いを行います。



帰り台輪：
8月29日(土) 午後6時～10時頃
諏訪神社を出発し、立売通りと
中央交差点で一斉あおりを行います。



応援したい

歴史と伝統を紡ぐ 特別支援プロジェクト

300年の長きにわたり受け継がれてきた「新発田台輪」。このかけがえのない文化を、次の世代、そして100年後の未来へと確実に引き継ぐため、記念協賛金とふるさと納税を活用した寄付を受け付けております。皆様からの温かいご支援を募集しております。

しばた台輪年表



1625 寛永 2年	諏訪社古丸より鍛冶町へ移る(蕉)
この時、鍛冶職人五十公野より移される。鍛冶町は今の大手町一丁目。	
1688 元禄元年	同 鍛冶町より泉町へ引移る(蕉・図)
この時、鍛冶職人今の御幸町一丁目に移される。鍛冶町はその後新徒士町と呼ばれた。	
1726 享保11年	かざり人形体六ツ(上町布袋、中町猩々、下町西王母、両町五福神、三町漢武帝、四町塩汲)出る。 (新発田台輪の原点)
1726 享保11年	同 正一位に宣下さる(蕉)
1744 延享元年	上町台輪成る(図)
1746 延享 3年	諏訪神璽お下りに対、猿橋住吉社迄お迎(蕉)
1748 寛延元年	下町台輪出来る(図)
1749 寛延 2年	諏訪社大造営始まる(蕉)
1756 宝暦 6年	同 御普請出来る(蕉)
1757 宝暦 7年	上町へ高砂人形かざる(図)
1758 宝暦 8年	両町台輪願済の上出す(図)
1759 宝暦 9年	材木町・紺屋町願済の上出す(図)
1760 宝暦10年	下町台輪願済の上出始む(図)
上町台輪、藩公より布袋人形・幕・笠鉾等を拝領	
1769 明和 6年	上町高砂人形水原町へ譲る(図)
1772 安永元年	中町台輪願済の上出す(図)
この頃よりござ舟台輪から今の屋台となる。	
1781 天明元年	上町台輪再建(棟札銘記)
1799 寛政11年	三の町台輪成る(月・蕉)
大工権太郎造 惣高入用三百六十文メ 古台輪七両にて新津町へ譲る	
1825 文政 8年	藩主二の丸で、五町台輪ご覧(月)
1829 文政12年	上町台輪曳出中、怪我死出る(月)
1835 天保 6年	三の町下町各台輪出来る(蕉)
三の町台輪大工権太郎造	
1845 弘化 2年	三の町怪我死出る、関係者処罰同前(月)
1874 明治 7年	三の町台輪衣裳を需用した 衣裳箱裏書に「旧藩用触集の衣裳を営む」としるさる
1885 明治18年	下町台輪格納庫類焼 附属具・人形・見送等残る
1890 明治23年	三の町台輪囃子太鼓譜作らる
1905 明治38年	泉町台輪加治町より求む 泉町台輪人形記銘「高間屋栄助取次」とあり
1907 明治40年	下町台輪成る
1910 明治43年	両町台輪格納庫類焼、台輪残る 人形七福神は焼失した
1913 大正 2年	大風雨のため祭日三日に延ばさる 爾御3日祭礼となる
1919 大正 8年	四の町三の町台輪大喧嘩 怪我人多数出る この後「新発田町祭典連合会」出来る
1928 昭和 3年	下町泉町両町台輪改修成る
1929 昭和 4年	新発田町祭典連合会々旗成る
1962 昭和37年	新発田市台輪保存会結成さる
註解(蕉)-蕉庵年代記 (図)-新発田図志科 (月)-月番日記	
新発田市文化財調査審議会1966「しばた台輪」をもとに作成	



蔵春閣
台輪

新発田台輪 300年の記憶

— 想いが紡いだ軌跡 —

新発田繁栄の象徴「新発田台輪」。

新発田人の熱き想いと
300年の歴史を写真や動画で振り返る。

7月17日(金)～8月31日(月)

休館日：木曜日

会 場：蔵春閣 9:00～16:00

入館料：500円

ご来場
特典！

300周年記念
ステッカープレゼント！

展示内容

- ・台輪運行300周年記念映像
- ・各町内で保管されている貴重な写真展示
- ・新発田台輪東京大会「天皇陛下のご即位をお祝いする国民祭典」に関する展示
- ・台輪に思いを馳せた新発田人の展示

今回の写真や映像展示にご協力いただいた全ての方々、
そして、台輪を愛する全ての方々に感謝申し上げます。

蔵春閣

〒957-0055

新潟県新発田市諏訪町1-9-20

TEL:0254-28-3255

FAX:0254-28-1156

休館日：木曜日(祝日の場合翌日)

しばた台輪300周年に
関する情報はこちら



しばた町めぐり



想いが紡いだ軌跡

300年の記憶

新発田台輪

輪の飾り人形

城下町新発田ふるさとまつり
今年も6町内の台輪が参る

る台輪の飾り人形を知っ

り人形の構造は1階と2階からなっ

てはお囃子、舞台と呼ばれ

た。台輪は、最も哀切を

な彫刻が施されている。

庄重な彫刻を垂れ、蔵公

人形を飾ったと伝えられて

いる。形はそのものである。

(参

り

り

り

り

り

り

り

り

り

り

り

り

り

り

り

り

り

り

り

り

り

り

り

り

台輪の歴史

まちの繁栄と各町内の誇りをかけ築き上げてきた台輪の歴史と文化は、三百年の時を超え、今も人々の心に生き続けている。

一. 諏訪信仰と新発田

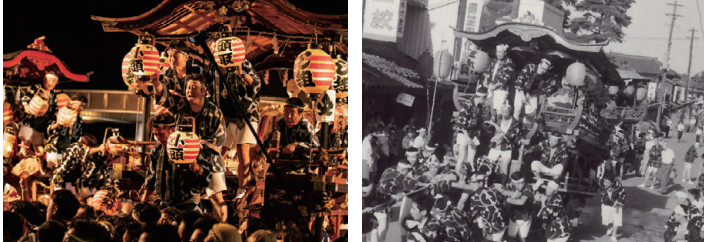
新発田地域に諏訪信仰が伝来し、地域に根づくまで

その昔、大和政権が「蝦夷(えみし)」とよばれる北方の勢力に備えるための防衛拠点とし、あわせて日本海側の支配権を拡大・維持するために、647年、現在の新潟市に淳足柵(ぬたりのさく)を、翌648年には現在の村上市付近に磐舟柵(いわふねのさく)を設置しました。これに合わせて、信濃より多くの人々が、後に新発田となるこの地へ移り住み、諏訪信仰をもたらしました。この諏訪信仰は、移り変わる時代の当主たちに大事に扱われ、その時代ごとの適地に場所を変えながら、まちの発展とともに人々の心に深く根づき、この地を見守ってきました。

二. 新発田藩と諏訪神社

江戸時代における諏訪神社の位置づけと役割の変化

のちに新発田が大いに栄える江戸時代——新発田藩・溝口家の時代になると、藩の安寧と五穀豊穡を司る神として新発田城内に安置されていた諏訪の神は、城外の武家地へ、さらに町屋の東へと、城下町の拡大整備計画に伴い、まち全体を守る総鎮守として現在の位置へと移されました。これにより、新発田のまちを守るこの神は、さらにこの地の人々の心に寄り添う存在となりました。しかし、夏の終わりに執り行われる祭礼は、当時はまだ藩主とその家臣の武家衆のみのものであり、町方の一般の人々が気軽に参加できるようなものではありませんでした。それでも「自分たちもお諏訪様を盛り上げたい」という町衆の想いは強く、その信仰心とエネルギーは熱を帯びていました。



三. 溝口直治の苦難

藩の危機と、安心を取り戻すための工夫

6代藩主・溝口直治公の時代、当時の新発田藩に存亡の危機とも言える苦難が訪れます。1710年代後半、信濃川や阿賀野川・加治川の濫が毎年のように繰り返されていました。また時を同じくして、諸国の商船の出入りや税金を巡って、河口周辺の流路変更や開発をめぐる「新潟湊」との訴訟の問題が発生するなど、当時の城下町には暗雲が漂っていました。その中で、領民の不安を払い、暗いムードを吹き飛ばす施策として、直治公は人々が信仰する諏訪神社に高い位を授けてもらうよう、朝廷への働きかけを行いました。

四. 台輪のはじまり

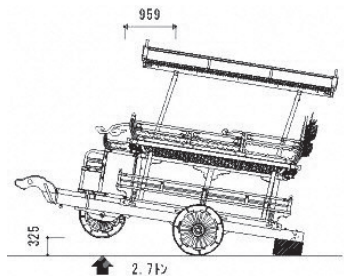
新発田祭「台輪」の誕生と発展

享保11年(1726年)直治公の働きかけは成就し、新発田の諏訪神社は朝廷より最高位である「正一位」の神階をいただいたのです。直治公は大いに喜び、この名誉ある昇叙を祝って「祭礼をより一層賑やかなものにするように」と町衆にお触れを出しました。災害などで鬱屈とした思いを抱えていた町衆にとって、このお触れは待ちに待った「底力を見せつける場」の解禁だったのです。「お諏訪様のお祝いだ、最高のものを見せてやろう!」——町衆の心に一気に火が付きました。大工、彫刻師、裁縫、漆塗りなど、地域の職人たちは持てる技術のすべてを注ぎ込み、各町内が競い合うようにして、精巧な飾り人形を乗せた壮麗な屋台(山車)や神輿、額面纏・伊達道具をつくり上げました。殿様のお触れをはるかに超える熱量で、「俺たちの町の台輪が一番だ!」という町衆の意地と誇りが生まれたのです。これが現在の「台輪」の始まりです。それから300年という長い年月にわたり、このまちの繁栄と各町内の誇り、そして人々の心とともに脈々と受け継がれ、今日に至っています。

「新発田台輪」の基礎知識

独特の「三輪」と、勇壮なる「あおり」

新発田台輪の最大の特徴は、前輪が1つ、後輪が2つの「三輪」構造になっている点です。運行する際は、前輪を持ち上げては地面に激しく打ち下ろす「あおり」と呼ばれる動作を繰り返しながら進みます。



(渡辺幸二郎2006「しばた台輪はなぜ壊れないか」)



6町内の台輪

現在は以下の6町内の台輪が現存し、新発田市の有形民俗文化財に指定されています。各町内によって山車や法被、掛け声にも独自の特徴があるため、お気に入りの「推し台輪」を見つけるのもおすすめです。



わ組(下町)



飾り人形の「西王母」は享保11年(1726年)当時からのもので、修復を経ながら現存している。人形や見送り以外は明治28年(1895年)に焼失したため、明治40年(1907年)に台輪が造り直された。

見送り: 鳳凰に桐 長さ: 5.502m 高さ: 3.830m 重量: 1.559t



一番組(上町)



現在運行している台輪は天明元年(1781年)に造られたものであり、現存する新発田台輪の中では最も古い。飾り人形の布袋と唐子は「上町藩主より布袋唐子人形拝領」との記録がある。

見送り: 鳳凰に桐 長さ: 5.375m 高さ: 3.920m 重量: 1.477t



い組(三之町)



現存している台輪は天保6年(1835年)に造られたものである。飾り人形の「漢武帝」は、享保11年(1726年)年当時からのものであり、下町同様修復を経ながら現存している。

見送り: 波に亀 長さ: 5.412m 高さ: 3.911m 重量: 1.566t



し組(四之町)



四之町にあった大富豪である白勢家が作り上げた台輪だと伝えられており、6町内の中でも重量・高さなど台輪の規模が最も大きい。

見送り: 竜 長さ: 5.320m 高さ: 4.080m 重量: 1.798t



泉組(泉町)



現在の台輪は、明治40年(1907年)に加治村から買い取ったのが始まりである。他町に比べて台輪が小さかったため、昭和に入り今の大きさに改修もしくは新造したといわれている。

見送り: 三羽鶴 長さ: 3.357m 高さ: 3.893m 重量: 1.630t



両町



明治43年(1910年)に、火災により飾り人形など台輪の大部分が焼失するも昭和3年(1928年)に改修された。現在の飾り人形である「義経と従者」はその際に新たに作られたものである。

見送り: 牡丹に唐獅子 長さ: 5.362m 高さ: 3.901m 重量: 1.560t